

[巻頭言]

「国際学研究」第6巻の発刊にあたって

国際学部長 丸 楠 恭 一

2010年4月、関西学院大学国際学部の設置に伴って翌年発刊された「国際学研究」も本号で第6巻を迎えることとなった。

関西学院の創設者であるウォルター・ランバスの精神に通じて関西学院に託された「世界市民の育成」という使命の具現化として、国際学部は、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成すべく、国際事情に関する課題の理解と分析を目的として設置された。学生に高い外国語能力を習得させ、人文社会科学の学際的な観点から、日本や世界の諸事情を多角的に理解・分析できるようにする、という本学部の教育上の成果は、学部開設7年、確かな実を結びつつあると実感している。そしてその要因のうちの 하나가「確かな歴史観に根差した学際性」であることは言を俟たないであろう。国際学部は前述のような教育・研究上の目的を達成するため、開設当初より、世界の中で我が国と密接な関係を持つ、北米及びアジアの言語、文化、社会、ガバナンス、経済、経営の領域に関する教育に主眼を置き、北米研究コース、アジア研究コースの2つを設けた。こうした学部設計の背景には、近代がグローバル規模に拡大する中で世界の諸地域がこれをどのように受容していったのかという認識が存在している。国際学部の学生はこうした認識を基軸としながら学際的に日本や世界に関する理解を深め、柔軟かつ長期的視野を持った国際性を養いつつあるのであろう。

そしてそれは、国際学部教員の研究活動についても同様に当てはまる。本学部の専任教員は、「国際」を切り口として、「縦の学問領域」(文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営、及び言語教育)に基づき研究活動を行っているが、その一方で学部内においては学問領域を超えた教育活動、研究会の展開を通じ、新たな研究の芽が確かに息吹きつつある。本号に掲載される諸分野の論文・研究ノート等はその成果といえよう。

国際学研究の掲載論文が、関連する諸領域の研究の質を高め、学問領域を超えた個人研究、共同研究を促進し、様々な分野で社会に貢献していくとともに、学生の学びにも寄与することを今後とも期待して止まない。

なお、2016年度においては、本年度末に退職される榎本悟教授及び高阪章教授のご在職中のご功績を記念し、本通常号(『国際学研究 Vol.6 no.1』)以外に別冊として

『国際学研究 Vol.6 no.2』榎本悟教授退職記念号

『国際学研究 Vol.6 no.3』高阪章教授退職記念号

の各号を刊行する。この両号を含め、国際学研究を刊行するにあたってご努力頂いた編集委員会の方々及び執筆者の方々に感謝したい。

2017年3月